



NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>

【ISO・外部審査結果】

一般財団法人日本品質保証機構(JQA)の茨木康夫 主任審査員(チームリーダー)、鋒山勉 主任審査員により、10月23日から25日の3日間で定期審査が行われました。

今回の定期審査では、適用規格[ISO 9001・4001:2015]の中で改善指摘事項は発見されず、登録されているマネジメントシステム(MS)について、システムが維持されていると判断されました。

審査報告書の【総合所見】は、「次なるテーマはQMS(品質)とEMS(環境)の統合であり、QMSの運用を中核にし、品質の中に環境要素を見出し、現在進行中の生産性・業務効率の向上を更に推し進めること」を求めています。

以下に「総合所見」「改善の機会」の一部を紹介します。詳細については、
テラステーション→ISO事務局→003 外部・定期審査報告書→2019 で確認してください。

【総合所見】(抜粋)

「経営計画書」で示された到達点が「年間改善活動計画書」に反映され、更に個人目標に展開されています。展開された品質目標・環境目標及びリスク及び機会への取組みの進捗管理に規格要求事項が活用されています。

ISOに準拠したマネジメントシステムの得意分野を活用した業務との統合が実現しており、MSの理想的な使い方の一つになっています。

次なる統合テーマは、QMSとEMSの統合ですが、QMSの運用を中核に、品質の中に環境要素を見出し、現在進行中の生産性・業務効率の向上を更に推し進めることとなります。

上述の様に「経営計画書」がマネジメントの中核になっていますが、「経営計画書」での環境への言及が少ない場合は環境活動が活発にはなりにくいという構造になっています。

【改善の機会】(抜粋・概略)

(1) <内部監査の対象> Q/E:9.2

拡大対象となった桑名事業所への内部監査は、営業活動の実態に合わせて、本社営業企画部の監査に合わせて行われていますが、計画段階の帳票に於いても明示し、他支店と同様に現地での監査も機会を捉えて実施してください。

環境の運用実態は現地訪問が欠かせません。

(2) <適用範囲の明確化> Q/E:6.2, 4.3

事務部門における環境への取組みは共通点が多く、実質的には部門間の区別はありません。

今期「年間改善活動計画書」では、総務部と管理部が統合されましたが、営業企画部や技術部の管理部門も共通ですので、EMSに於ける組織の括り方を運用実態に近い形にすることは、EMSの運用効率を高めることに寄与します。

(3) <達成手段の明示> Q/E:6.2.1

「環境側面抽出及び著しい環境側面/リスク及び機会の判定表」により特定された取組むべきリスクや機会が目標として「年間改善活動計画書」を用いて進捗管理されていましたが、目標である完工高、直工率の数値を達成するための施策の1つ“昨年の実績より質を向上させる”の具体的内容が定められていませんでした。

目標を達成するための施策の明確化と共に目標値と施策の両者の進捗管理に検討の余地があります。

(4) <運用基準不明> Q/E:10.2.1

改善事由報告書の作成基準が定められていませんでした。是正処置基準の明確化と共に効率的な記録の管理に検討の余地があります。

